

## フクシマ 8 周年かざぐるまデモで

### Christoph Rasch(Greenpeace Energy)による演説

フクシマの原発事故はヨーロッパにいる私たちに対しても警告を発しています。そしてこの警告は日々現実性を帯びてきています。私たちを取り囲む近隣諸国はあらゆるリスクをものともせず、いまだに新しい原発を建設しようとしているからです。しかし、それは現在嬉しいことに、そう簡単なことではなくなっています。例えばポーランドを例に取ってみましょう。ポーランドでは石炭による火力発電の割合を減らし、それを原子力発電で補おうと、この国で初めての原発を建設する計画を立てました。しかしこの原発建設計画は座礁に乗り上げています。建設立地が明らかにされないまま、計画は何年も延期されることになりました。

ハンガリーでもあらゆる批判を顧みず原発建設を実現しようとしています。ヴィクトル・オルバーンの望みでパクシュ第二原発を建てようというものです。ロシアが財政援助をし、きわめて不透明な方法で計画が進められました。しかし、安全に関する点がどんどん問題になってきました。どのようなスタンダードがパクシュでは適用されることになるのか？ 放射能廃棄物はどうするのか？ そしてさらに、原発立地予定地が地震の可能性のある地域にあることが判明したのです。

それからイギリスを見てみましょう。現在建設中の原発ヒンクリーポイント C はなんと市民からの税金の 1000 億ユーロを消費することになる見込みでした。しかしここでイギリスの EU 離脱がものを言うこととなります。つまり、もし「ノー・ディール」でイギリスが EU 離脱となれば、欧州原子力共同体(Euratom)がイギリスには適用されないことになり、例えば、原発に必要なコンポーネントやウラン等を輸入することが難しくなります。そうなればヒンクリーポイント C はもっと高つくことになるでしょう。

これらの三つの例を見ればわかるように、原子力エネルギーは危険で、コストが高く、非経済的であることが明らかです。原子力エネルギーを追えば、その国はエネルギー自立をする代わりに、新しいエネルギー依存に陥ることになります。だからこそ気象変動危機に対しても解決策とはなりません。電気を作るならずっと安全で環境に優しく、ずっとコストも安い方法があることがすでに分かっているからです。風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーがその答えです。これを水素等を使ったフレキシブルな蓄電システムと組み合わせれば、原発と同じように電力を随時送電することが可能なのです。ただ違うのは、原子力エネルギーと違って放射線の不安も放射性廃棄物の危険も一切伴わないことです。

このような再生エネルギーシステムを確立すれば、イギリスもポーランドもハンガリーもその他の多くの国も、原発建設に必要な膨大なコストを節約することができ、信頼できる電流供給が保証できるのです。そのことを私たち Greenpeace Energy ではあらゆる研究調査で証明してきました。ですからヨーロッパの近隣諸国に訴えたいと思います：原子力ロビーの偽りの約束に耳を貸すのはもうやめよう！ 何十億何百億ユーロを貪る原発建設計画で、持続可能なエネルギーの未来を壊してはならない！

そして私たちはここドイツでも、脱原発を決定したからと安心してはなりません。ドイツ政府は今こそ、ヨーロッパではこれから再生可能エネルギーに移行していくしかないということを近隣諸国に説得していくべきで、EU で進行中の原子力関係のプロジェクトを批判していかなければなりません。脱原発を真剣に考えるなら、ドイツ連邦政府は、国際的に原子力産業にとって重要な土台となっている、まったく時代を逆行するような古い欧州原子力共同体(Euratom)を解約すべきです。これがあるために、ヨーロッパのあらゆる政府はこれまでエネルギー的に見ても経済的に見てもまったくナンセンスな原子力プロジェクトを正当化してきているのです。

<https://blog.greenpeace-energy.de/aktuelles/anti-atom-demo-keine-neuen-akws-in-europa/>